

ながはま 見聞録

Nagahama Hotnews

7月15日(土)

夏の自然体験を満喫しました

北郷里まちづくりセンター近くの春近川で、三代交流自然体験事業「魚つかみ大会」が行われ、北郷里地区の子どもたちと保護者など114名が参加しました。

約250匹のアユが放流され、子どもたちが素手や網を使ってつかみ取りを楽しみました。

その後は火起こしに挑戦し、捕まえたアユをそのまま塩焼きに。焼きたての美味しさに、子どもたちの顔がほころびました。



7月22日(土)

楽しみながら様々な仕事を体験

様々な職業の模擬体験をする「わーくワーク北小タウン2017」が長浜北小学校で行われ、約600人の児童が参加しました。

この事業は仕事の体験を通じて、働くことの喜びを感じたり、あいさつや礼儀作法など人との付き合い方を学ぶ機会として同校PTAが実施しているものです。

子どもたちは希望した職業の仕事を体験。楽しみながらも真剣な表情で取り組みました。



7月27日(木)～30日(日)

炎天下の中、全力プレーで会場を沸かす

長浜市民庭球場において「第34回全日本小学生ソフトテニス選手権大会」が行われました。

開会式で選手宣誓した滋賀県代表の中川翔喜選手と向畑奈々美選手は、「感謝の気持ちを忘れず、仲間との絆を大切にしながら全力でプレーする」と誓いました。

4日間の大会中は夏本番の暑さの中でしたが、どの選手も全力プレーで会場を沸かせていました。



7月27日(木)

起業型地域おこし協力隊を委嘱しました

地域おこし協力隊の委嘱式が行われ、隊員が参加しました。これは地方発の「ローカルベンチャー」創出を実現するために、明確な活動ビジョンを持ちながら地域で活動し、将来的に地域での起業を目指す人の育成を目的としています。

隊員は防災や伝統工芸・文化継承など特色あるプロジェクトを持つ10人。将来の起業に向けての活動が始まります。



このコーナーは、長浜の見どころ、市民の皆さんの活動の様子やまちで見かけたほっとな話題を紹介します。あなたが知っている旬の話題などがあれば、市民広報課（☎65-6504）までお知らせください。市公式Facebookページでもさらに詳しくみることができます。

<https://www.facebook.com/nagahama.hotnews>

「長浜 ほっとにゅーす」

検索

7月29日(土)

50年ぶりに長浜駅前が生まれ変わりました

長浜駅前でまちの顔となる商業施設「えきまちテラス長浜」がグランドオープンを迎えました。オープニングイベントでは、ご当地キャラとの撮影会やピワマスの試食会などのほか、プロバスケットボールチーム「滋賀レイクスターズ」の選手がパフォーマンスを披露するなど盛りだくさん。

びわ湖と伊吹山を望むイベント広場もあり、駅前や市民活動の活性化に期待が膨らんでいます。



8月4日(金)

1万発の花火が夜空と湖面を彩る

長浜の夏の風物詩「長浜・北びわ湖大花火大会」が開催され、約1万発の花火が夜空に打ち上げられました。

カウントダウン花火や芸術花火、音楽に合わせて打ち上げるミュージックスターメインなど多彩な花火が夜空と湖面を彩り11万人の観客がその迫力と美しさに酔いしれました。クライマックスは超特大のスターメイン。会場の盛り上がりは最高潮に達し、感動のフィナーレとなりました。



8月6日(日)

伝統の舞“太鼓踊り”、脈々と

余呉町下余呉の平彌神社で「下余呉太鼓踊り」が行われ、地元の子どもたち24人が踊りを奉納しました。

子どもの減少で、奉納できる年が少なくなっていました。2013年に「下余呉太鼓踊り保存会」を発足。昨秋開催の「日本の祭りinながはま2016」に出演するなど、太鼓踊りを承継するため精力的に活動しています。

猛暑にも負けず、躍動感あふれる踊りを披露しました。



8月6日(日)

クモの魅力に迫る交流会

山村地域の活性化を目的にした「山を活かす、山を守る、山に暮らす」都市交流モデル事業の一環として、山門水源の森現地交流会「常識くつがえすクモの世界」が行われました。

県内外から84人が参加し、「クモに良いイメージはなかったが、講演を聞いておもしろい生き物だと興味がわいた。クモの網の美しさなどもよくわかった」との声が聞かれました。

